

議 事 概 要【ホームページ公表用】

内 容	
会議名	令和6年(2024年)度第1回豊中市障害者差別解消支援地域協議会代表者会議
日 時	令和6年8月1日(木) 14時00分～16時00分
場 所	市立障害福祉センターひまわり会議室1・2
出席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員 16名(市職員、当事者会、家族会、福祉及び介護、大学等)</li> <li>・アドバイザー 1名</li> <li>・オブザーバー 1名</li> <li>・事務局 5名</li> </ul>
欠席者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員 7名(市職員、当事者会、家族会、福祉及び介護、その他、アドバイザー)</li> </ul>
議 案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の取組みについて</li> <li>・今年度の実務者会議について</li> <li>・その他</li> </ul>
参考資料	<p>(事前配布資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次第</li> <li>・配布物「会議での運営について(お願い)」</li> <li>・資料1「今年度の取組みについて」</li> <li>・資料2「実務者会議の内容について」</li> </ul> <p>(当日資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座席表</li> <li>・代表者会議名簿</li> </ul>

## 会 議 内 容

事務局による開会宣言。

### 1. 会長挨拶

会長による挨拶。

事務局より委員の出欠状況について報告、名簿の紹介、資料の確認、運営の説明。

### 2. 今年度の取組みについて

(事務局)

- ・資料1「今年度の取組みについて」に基づき説明。

(委員)

障害者差別解消法の認知度が低い。障害者差別解消法に関する相談窓口がわかりづらい。相談件数がどれくらいあるのか。市民、事業者に対しての周知も必要。

(事務局)

令和3年度から5年度にかけて、3件ずつ。出前講座や研修も実施しているが実際に障害のある方とお会いしてつながりをもつこと、一緒に学ぶ機会をもちたい。周知・啓発については、大阪府のホームページに相談窓口を掲載している。

(委員)

市主催の権利擁護についての研修が必要だと思う。

(委員)

学校現場での合理的配慮についてお聞きしたい。

(委員)

本市は障害のある子どももない子どもも、同じ教室でともに学びともに育つこと、可能な限りの合理的配慮をしたうえで学ぶということを基本として進めている。学校の先生への研修については年に20回以上実施しており、豊中市の考える障害児教育基本方針等を周知するとともに、可能な限りの合理的配慮をするように指導している。就学前に支援学級を希望される方には就学相談を行っている。障害を理由とする差別の社会モデルで言われる環境の壁をなくすような努力をしているところであり、今後も意識の向上と環境の改善を図っていきたい。

(委員)

分離教育について、豊中市で2つ目の支援学校がつくられようとされつつある。差別を助長する一つの契機だと思う。

二つ目、障害者平等研修について、豊中で一回だけ商店の方々向けに実施したが、そ

の一回だけで続かなかった。良いプログラムだと思うので、我々も経験し、商店や事業者の方々にも受けてもらえるプログラムを考えていけたらと思う。

意見として、まず、出前講座の内容を知りたい。

資料1の長期計画と協議会との関係について、協議会同士の有機的連携という意味で良いと思う。障害者差別解消法の認知度の低さに対する有効な施策について、支援地域協議会で考えて、障害者施策推進協議会に提案するなど、連携していけたらいい。

今年度の予定されている取組に相談人材の育成確保や事例収集についての取組みが予定されていない。予算とか人材のことなので一朝一夕にはいけないと思う。委員の方から確認してほしいということを話し合っまとめていくことも必要ではないか。

(事務局)

出前講座については、今現在は「障害があるってどういうこと」、「障害者差別解消法の合理的配慮」について実施している。研修の最後に話し合いの時間を設け、いろんな人の意見を共有してもらっている。相談支援の強化については具体的に言える状態ではない。

(事務局)

相談支援に関する人材だけではなく、介護全体の中で人材の確保が課題になっており、現在、計画の中でも主要施策として取組みを進めている。行政だけで支えるということは難しく、あらゆる機会において関係機関が知恵を出し合い、それぞれ役割を果たしながら、少しでもいい方向に一步步進んでいけたらと思っている。また、この支援地域協議会でいろいろな提案や意見をいただきたい。

(アドバイザー)

精神障害の方で実際病院に通っている方が600万人を超え、国民の1割が障害を持っている。障害者はマイノリティーを超えつつあることを認識し、共に暮らしていくことが当たり前という雰囲気を作っていきたい。

学校における合理的配慮の適切な支援についても、質と量の問題をどうするのか等の問題がある。民間事業者の合理的配慮の提供が義務化されたことから、保育、幼稚園の段階からともに生きともに育つためにこういった仕組みを作っていくか一緒に考えていきたい。

(オブザーバー)

オブザーバー参加の民間事業者が増えない。

民間事業者の立場から、何か意見があればホームページに意見欄があるので教えていただきたい。しっかりと事実確認をし、回答している。悪かったこと、そして良かったことについても教えていただきたい。運転手の励みになる。

阪急バスとしてはもともと大阪府の条例で合理的配慮の提供が義務化されていたことから今までどおり行っている。

(委員)

支援学校が民間委託しているスクールバスの乗車拒否問題がえんの全体会で報告された。現在大阪府に相談している。

(事務局)

相談場所や啓発について、調整させていただく。

### 3. 今年度の実務者会議について

(事務局)

- ・資料2「実務者会議の内容について」に基づき説明。

(会長)

具体的にどんな研修をするか、大きく3つに整理できると思う。

1つ目はグッドプラクティス、バッドプラクティスから学んでいく。他の取組みから学んでいくことを学びの研修の一つの柱にできるのではないかな。

2つ目は他の障害について、なかでも精神障害や発達障害、内部障害、難病の方も含めて見えにくい障害について学んでいく、そのことがこの会議の代表性を高めていくことになるのではないかな。

3つ目は権利条約について原点を学んでいく、グローバルな観点から学んでいく。この3つをローテーションでできればと思う。

(委員)

成人の発達障害者にとって障害者雇用促進法の合理的配慮が問題になっている。障害者差別のことや社会モデル、合理的配慮の理解について学びたい。

(委員)

発達障害は外見から分かりにくいことから、無関係の人たちとの間でのコミュニケーションのトラブルが生じる事がある。万が一の時のために障害者であるという証明ができるよう障害者手帳を常に携帯している。

(委員)

自立支援協議会で昨年度から人権課題検討部会を設置した。色々なところと共催というかたちで研修、講座をしていきたい。一緒にできるところはやっていきたい。

(委員)

大阪府の自立支援協議会の高次脳機能障害の部会に入っており、色々な啓発活動を進めているなかで、ショッピングモールで高次脳機能障害についてのティッシュやクリアファイルを作って配布している。啓発グッズを作成する際に大学のデザイン学科と協力して、イラストを描いてもらった。学生は楽しみながら作り、SNSで周知してくれた。そ

ういったつながりから何か啓発の活動ができればと思う。

(委員)

身体障害者福祉会のなかでも、他の障害についてはわからない。  
合理的配慮について理解されていない方の中には何にでも合理的配慮と結びつけようとする方がおり、説明するのが大変。

(委員)

自分自身も精神障害について全く知らなかった。就職先や近所でも理解が得られにくい。障害者相談支援センターが頼りで相談をしたがきちんと対応してもらえない。

(アドバイザー)

建設的な対話ができた好事例があればそこから学ぶことができる。  
見えにくい障害について全面的に理解できていない。ともに学びたいと思う。

(会長)

この3つのローテーションで進めていくということによろしいでしょうか。

異議なし

#### 4. その他

(事務局)

次回開催予定

(会長)

閉会挨拶